

明石名物 手話で表現

小学生ら「タコ」など学ぶ



和やかな雰囲気の中、「タコ」を示す手話に挑戦する参加者ら＝生涯学習センター

小学生が対象の「冬休み 初めての手話体験教室」が27日、明石市生涯学習センター(東仲ノ町)で開かれ、市内の親子19人が参加した。明石にまつわる言葉やあいさつの表現を学んだり、2種類の手話を判別するクイズを楽しんだりした。

市と市社会福祉協議会が主催、明石ろうあ協会と明石手話通訳者協会のメンバーが協力した。市は現在、障害者が意思疎通を図りやすい社会を目指す「手話言語条例」の制定に取り組んでおり、市民の関心を高めようと開催した。

参加者は、耳が聞こえない人がいる家族の暮らしをテーマにした映像を見て、気づいた点を発表。玄關のベルが鳴ると室内のライトが点滅する、外出にはノートを持参し、筆談を交えるなど、日常生活上の対応を学んだ。その後、4グループに分かれて「タコ」「明

石焼」など地元と関わりの深い単語や、自分の名前を手話で表現した。藤江小学校6年の塔向美羽さん(12)は「相手の目を見て手話をする」とよく伝わると感じた」と話していた。
(新聞真理)